薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめますよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ・・

２０２２年
７月１８日
第１３４号

セイヨウニンジンボク（シソ科）

園、通用口近くのフェンス沿いの幼木に、淡紫色の花を付けているのがみられます。西アジア、南ヨーロッパ原産の落葉低木です。中国原産の近縁種の葉の付き方がオタネニンジンに似ることから、その種がニンジンボクと名付けられ、さらに西洋に分布するその近縁種であることから、この名となってます。全体に精油を含み、顔を近づけるだけで香るほどです。花は９月頃まで枝の先端に小花を円錐状に付けています。その後、直径3 mmほどの球形の果実ができます。ヨーロッパでは、葉をハーブティーとするほか、果実を月経前症候群に対する民間薬として利用、ドイツではチェストツリー実という名の生薬として承認されています。中医学では、ニンジンボクの葉を祛風、解表を目的に使用しますが、本種は使用されません。

ゲットウ（ショウガ科）

園の通用口から入りすぐ左に曲がると、すぐ、ランに似た花の群生が目をひきます。九州南部からインドまで分布する多年草で、花や葉が美しく、香りがよいので人気があります。沖縄では、葉で餅米を包んで蒸して餅菓子を作ったり、茶外茶として利用したり、虫刺されに根茎の絞り汁を外用したりして、利用されています。日本では、果実が生薬シュクシャの代用品、白手伊豆縮砂（シラデイズシュクシャ）となり、民間で健胃薬として利用されています。中医学では、根茎と果実が艶山姜（エンサンキョウ）という生薬となり、温中燥湿、行気止痛を目的に、胸腹部膨満感、消化不良、嘔吐下痢などに利用されます。